

谷津の困った生き物たち ー外来種について考えるー

松下恵美子 高山邦明

谷津田での稲作を始めて十数年が経ちますが、このところ、今まであまり見かけることがなかった生き物の姿を目にすることがあり、それらがどのような影響をもたらすのか気になっています。

今年は手に乗るほどの小さなアカミミガメの赤ちゃんを小山の暗渠近くで見つけました。近隣の水辺の郷公園で繁殖したものが流れてきたようですが、アカミミガメは成長が早く産卵数も多いため、エサや生息域が競合している在来種のイシガメへの影響を考えると定着されないか心配です。

アライグマによる農作物を荒らすなどの被害も目立ってきています。アライグマは雑食で旺盛な食欲なので、農作物だけでなくイシガメやニホンアカガエルなどさまざまな在来種の補食も懸念されています。



ウシガエル

数年前、稲刈りし終えた学校田んぼに大人の親指より大きなオタマジャクシが何匹もいて驚いたことがありました。こんな時期にオタマジャクシ？ と不思議に思って捕まえたところ外来種のウシガエルのオタマジャクシでした。ウシガエルはかなり大きく、食欲も旺盛なカエルなので、在来種のニホンアカガエルやシュレーゲルアオガエル、水生生物などを補食してしまう困り者です。また、今や田んぼに普通に暮らしているアメリカザリガニも外来種でメダカやヤゴなど水生生物を捕食し田んぼ、小川、溜池などの生態系への影響が危惧されています。

田植えのころ、子どもたちと自然観察していて目立つ草花といえばナガミヒナゲシです。かわいらしいオレンジ色のケシの一種ですが、谷津田脇の畑まわりはこの花でいっぱいになっていて、従来の谷津の春の草花が隠されて楽しめなくなるほどです。一輪で何千もの種子を持っていると言われるほど繁殖力が強く拡散が憂慮されています。秋になると谷津を黄色く彩るセイタカアワダチソウは外来種の先輩格。セイタカアワダチソウは根や葉から周辺の植物の生育を阻害する物質を発生して分布を拡大しており、ナガミヒナゲシも同じ特性を持っていることから最近の急激な広がりが懸念されています。

近年、谷津を訪れて耳にするのがシャーシャーというクマゼミの声です。クマゼミは外来種ではありませんが、関東地方には生息し



ナガミヒナゲシ

ていなかったセミで、最近あちこちで普通にその声を耳にするようになりました。また、秋になると、リーリーリーという外来種アオマツムシの大きな声が谷津の夜を覆って、コオロギの音がほとんど聞こえません。新たな生き物により、谷津の音風景も大きく変わりつつあります。

なぜ、さまざまな外来種が谷津に広がっているのでしょうか？ アカミミガメの赤ちゃんは一昔前に縁日などでよく売られていた通称ミドリガメです。かわいい赤ちゃんはすぐに大きくなってしまい、水槽の掃除など手間ばかりがかかるようになると、近くの田んぼや池などに放す人が多く、野生化したアカミミガメが各地で問題となっています。アライグマもしかりで、一昔前にペットとして飼育することが流行り、飼いきれなくなったものが放なされて全国的に増えてしまいました。

ウシガエルは昭和始めに食用のために輸入され、さらにその餌としてアメリカザリガニも輸入され、それらが野生化しこちらも全国的に普通種となっています。ナガミヒナゲシなどの外来植物は海外の農作物輸入に伴いその種子が入り込んだり、園芸種として輸入されたりしたものなどが広がったと考えられています。

クマゼミはもともと西日本の生き物ですが、その北上は、温暖化の影響以外にも街路樹などの根に幼虫が付くことで分布拡大が加速しているとも言われています。また、下大和田や小山町で最近見かけるようになったアカホシゴマダラは、蝶マニアによる人為的放蝶が拡散した原因と考えられています。



アカホシゴマダラ



罾にかかったアライグマ

ここで紹介した外来種の多くは生態系に被害を及ぼすおそれがあることから、生態系被害防止外来種リストの総合対策外来種に指定されて、入れない・捨てない・拡げないといった総合的な対策が必要とされています(下記、一覧表参照)。さらにアライグマとウシガエルは特定外来生物に指定されて、その飼育などが法律で規制され防除等を行うこととなっています。ウシガエルのオタマジャクシが学校田んぼに現れた時は、ボランティアのお母さん方に協力していただき、すべてのオタマジャクシを捕獲しました。アメリカザリガニは数が多いので大変ですが、小山では学校田んぼの作業に来た子ども達やお母さん方に捕獲していただいています。下大和田ではアライグマの捕獲の罾を仕掛けて毎日点検をし、これまでに18頭捕獲しましたが依然として罾にかかります。

アカミミガメの赤ちゃんや罾に捕まったアライグマの姿を見ると駆除するのはとてもかわいそうに感じてしまいが、放置することによって別の多くの命、さらには種そのものが失われてしまう恐れもあります。生き物には何の責任はなく、本来いてはいけない場所に放した人間の責任であることをしっかりと肝に銘じておくことが大切でしょう。

外来種のもう一つの対策はよそから持ち込まないことです。明らかな外来種はもちろんですが、厳密

に言うと在来種であってもその地域に生息していないものを持ちこむと「外来種」となるそうです。(「外国から持ち込まれた生物を「国外由来外来種」といい、国内での持ち込みを「国内由来外来種」といいます。) また、メダカやカブトムシのようにもともと谷津に暮らしている生き物であっても他の土地で採取したものを放つことも大きな影響を及ぼす恐れがあります。同じ種であっても土地によって独特の遺伝子を持っていて、各土地の環境やその変化に適応しているのです。よその土地の個体が持ち込まれることによって、遺伝子が乱れ、適応度が下がって数が減ったり、環境変化で一斉に姿を消したりする危険性が生じます。同じ種類なので目には見えないだけにとっても大きな問題です。



ミシシippアカミミガメ

自然観察会や学校田んぼの活動で外来種の危険性をお話しし、「生き物を持ち込まないで!」とお願いしています。生き物を飼う時はその命が全うするまで飼い続ける覚悟が必要です。飼い続けられなくなって、自然の中に放してあげることがその生き物にとって良いことだと思いかもしれませんが、放たれた先でたくさんの命を奪い、生態系を大きく乱すことになりかねないのです。

日本各地で問題となっている外来種は谷津田でも様々な影響をもたらしています。その現状をお伝えし、皆さんのご理解とご協力を得ながら在来種の保存とともに少しでもその影響が拡がらぬようにしていきたいと思えます。(写真 網代春男)

分類群	和名	選定理由	定着段階	対策優先度の要件	
				被害の深刻度	実効性・実行可能性
総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種)					
緊急対策外来種					
哺乳類	アライグマ	I, II	分布拡大期～まん延期	①②③④	⑤
爬虫類	アカミミガメ	I	分布拡大期～まん延期	①	⑤
その他の無脊椎動物	アメリカザリガニ	I	分布拡大期～まん延期	①③	⑤
重点対策外来種					
哺乳類	ハクビシン	III	分布拡大期～まん延期	①④	
両生類	ウシガエル	I	分布拡大期～まん延期	①③	
昆虫類	アカボシゴマダラ	I	分布拡大期～まん延期	①	
キク	セイタカアワダチソウ	II, IV	分布拡大期～まん延期	①②③	

※選定理由

- I. 生態系被害が大きいもの。
- II. 生物多様性保全上重要な地域に侵入し、問題になっている又はその可能性が高い。
- III. 生態系被害のほか、人体や経済・産業に大きな影響を及ぼすもの。
- IV. 知見が十分でないものの、近縁種や同様の生態を持つ種が明らかに侵略的であるとの情報があるもの、又は、近年の国内への侵入や分布の拡大が目目されている等の理由により、知見の集積が必要とされているもの。

※対策優先度の要件

- ①生態系に係る潜在的な影響・被害が特に甚大である。
- ②生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。
- ③絶滅危惧種等の生息・生育に甚大な被害を及ぼす可能性が高い。
- ④人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対して甚大な被害を及ぼす。
- ⑤防除手法が開発されている、又は開発される見込みがある等、一定程度の知見があり、対策の目標を立て得る。

(環境省ホームページより)



里山たんけんレポート

第223回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2018年8月5日(日) 晴れ

夏は草が茂り入れない下流部手前の鉄塔まで巡りました。鉄塔保守のため草を刈ったようです。ヒグラシの雌を手で捕えたらそばにクモの巣にかかった雄がいました。セミの雌、雄の体の違いを見比べたり、トンボを捕え観察しました。オニヤンマ雄も捕えられました。緑色のきれいな目、体の黄色い縞模様、掴まる足の力強さ、大きさなど名前通りの立派なトンボです。お父さんが取ったオニヤンマを持ってパチリ。



谷津の中の湿地にあるクマヤナギは実が赤や黒く色付き熟していました。黒いのを口にしたら甘い実でした。よく見ると地味ですが花も咲いています。翌年の花の時期にやっと実る植物です。折り返し地点の鉄塔にはキアシナガバチが巣をかけていました。ここからは向かい斜面林下の土水路脇を戻ります。この土水路は今まで探ったことがなかったので数カ所も網を入れて探ってみました。フナ、タモロコ、ドジョウ、ホトケドジョウ、スジエビが捕えられました。土水路の上は木々の枝葉が茂り殆ど日が当たらないので生きものは少ないのではないかと思います。途中イノシシが掘った穴やぬた場の跡が数カ所ありました。草を刈ってくれたのは有り難いのですが、又マトラノオの群落が刈られていました。

(大人8名、小学生2名、 報告・写真 網代春男)

第224回 下大和田 YPP「かかし作り」

2018年8月11日(土) 晴れ

始めにコシヒカリ田の収穫予測をしました。ひと株に出ている穂の数、穂についている粒の数を各人3つ数えて田んぼに植わっている株数を掛けました。例年より植えた株の数が少なかったようです。



かかし作りは先ず山に入って竹の切り出しです。竹を切って、枝を払い、運び出しました。体と、腕に切り分け、骨組みを作り、思い思いのかかしを作り上げました。2体を作ったファミリーもあって全部で15体ものかかしが出来上がりました。記念写真を撮って、田んぼに立てました。その後、鳥よけのテープを張りました。 たくさんのかかしが田んぼを守ってくれることでしょう。

(参加 大人32名、小学生17名、幼児6名、報告・写真 網代春男 写真・田中正彦)

小山町YPP(学校田んぼかかし作り)

2018年8月22日(水) 晴れ



強い日差しの大変暑い中にもかかわらず、たくさんの方々がりんどう広場に集まりました。

スタッフと合わせて総勢38人でのかかし作りとなり、全部で7体のかかしを作りました。みんな一緒になって、こうしよう、ああしようと思いを話し合い、とても手際よく素敵なかかしを作りました。

子ども達のかわいらしい声が響き、りんどう広場が子ども達の来訪を喜んでいるようでした。

来月号以降に、参加してくれた子どもたちの感想と合わせてかかしの紹介が出来たらと思っています。

(参加 大人18名、中学生1名、小学生15名、幼児4名 報告・写真:たんぼぼ)

<谷津田・季節のたより>

小山町

- 8月 4日 アカホシゴマダラ（赤シャツおやじ）
- 8月 16日 ツルボの花咲く。（たんぼぼ）
- 8月 24日 ショウジョウトンボが稲の葉にとまる。（たんぼぼ）
- 8月 27日 複数のオニヤンマが低空飛行。（たんぼぼ）
- 8月 29, 30日 コジユケイの親子の行進。（たんぼぼ, 赤シャツおやじ）

下大和田

- 8月 5日 ツクツクボウシ鳴き出す。（網代）
- 8月 25日 マイ田んぼに今年もスズメが大挙してやってきた。（網代）
- 8月 26日 フジカンゾウ咲き始める。（網代）



ショウジョウトンボ 撮影 たんぼぼ

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ？ と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、谷津田プレーランドプロジェクト（YPP）のイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうしで、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先（いずれも）：ちば環境情報センター（TEL&FAX：043-223-7807 E-mail：hello@ceic.info/）

- ご注意：
- ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないでください。
 - ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
 - ・小学生以下のおさんは保護者同伴で参加ください。
 - ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

▼第225回下大和田 YPP「コシヒカリ稲刈り」▼第226回下大和田 YPP「コシヒカリ脱穀」

稲刈り コシヒカリ、農林1号の稲を刈って、束ね、おだに掛けて乾かします。

脱穀 稲束を脱穀機に掛けて籾を収穫します。

- 日時：稲刈り 2018年9月8日（土）9時45分～15時 ☆小雨決行
脱穀 2018年9月22日（土）9時45分～14時 前日、当日雨の時は延期あり。
- 場所：千葉市緑区下大和田谷津田（ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。）
- 集合：現地9時45分 初めて参加する方は駐車場や会場をご案内しますので事前に、網代（あじろ）090-2301-0413までご連絡ください。
- 交通：JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで中野操車場バス停下車、徒歩5分で現地。<千葉駅発8:25、8:40など、所要時間45分>料金は540円。
- 持ち物：弁当、飲み物、帽子、軍手、着替え、田んぼ用長靴、敷物など。
- 参加費：ちば環境情報センター会員および家族100円、一般300円、小学生未満無料
- 主催：ちば環境情報センター 共催：ちば・谷津田フォーラム

▼里山くらぶ 森と水辺の手入れ

山林内の下草刈りや畦、小川回りの草刈りをします。

- 日時：2018年9月16日（日）9時45分～14時 ☆小雨決行
- 場所：千葉市緑区下大和田谷津田（同上）
- 集合：現地9時45分 初めて参加する方はご連絡ください。（同上）
- 持ち物：弁当、飲み物、帽子、軍手、長靴、長袖長ズボンの服装、敷物など
- 主催：ちば環境情報センター



ツルボの花 撮影 たんぼぼ

▼第225回下大和田谷津田観察観察会とゴミ拾い

前月に引き続きトンボの調査を兼ねて行います。トンボは捕えて種を記録、マーキングをして放します。

- 日時：2018年10月7日（日）9時45分～12時 ☆雨天決行
- 場所：千葉市緑区下大和田谷津田（同上）
- 集合：現地9時45分 初めて参加の方はご連絡ください。（同上）
- 持ち物：筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など
- 参加費：100円（小学生以上、資料代など）
- 主催：ちば・谷津田フォーラム、ちば環境情報センター

▼第161回 小山町 YPP「コシヒカリの稲刈り」

収穫の第一歩としてコシヒカリの稲刈りをします。

- 日時：2018年9月16日（日）、30日（日）10時～12時30分 ☆小雨決行
- 場所：千葉市緑区小山町 リンドウ広場（ご連絡いただければ地図をお送りします）
- 持ち物：飲み物、長靴（長めのもの）、帽子、軍手、敷物。
- 参加費：100円（小学生以上、資料代など）
- 主催：ちば環境情報センター

■編集後記 8月は台風が9個発生し、内5個が上陸しました。稲たちの状況がとても心配な日々が続きましたが、水や強風が暴れることも無く、稲穂はしっかり色づき始めほっとしています。入り組んだ谷津田は、風よけや、水を調整する機能に長けているのかもしれない。台風一過の青空の下、下大和田に15体、小山に7体の案山子達が誕生。谷津田の見守りたのんだぞ！（赤シャツおやじ）